

1997年度 研究会報告書

21世紀企業のグローバル・コミュニケーション

中間報告

1998年10月31日

日本広報学会

海外広報にみるクロスカルチャル・マネジメント研究会

海外広報にみるクロスカルチャル・マネジメント研究会

中間報告書

目次

I. 研究会概要

- 1. 会員一覧 2
- 2. 活動記録 3

II. 研究内容

- 1. 研究目的 4
- 2. 研究の進め方 5

III. 報告要旨

- 1. 第1回研究会「トランスナショナル・マネジメント
と異文化マネジメント」 6
- 2. 第2回研究会「クロスカルチャル・マネジメントについて」 8
- 3. 第3回研究会「国際ロータリーの広報活動の課題」 10
- 4. 第4回研究会「謝罪広告にみる日米比較」 12
- 5. 第5回研究会「クロスカルチャル・コミュニケーションとしての
日本賞教育番組国際コンクール」 14
- 6. 第6回研究会「体験的海外むけ企業広報」 17
- 7. 第7回研究会「グローバル社内コミュニケーションの潮流」 19

IV. 本年度の研究の成果 21

V. 次年度の課題 23

1. 研究会概要

1. 会員（12名）

市川 昌 江戸川大学 社会学部マスコミュニケーション学科長・教授

馬越恵美子 東京純真女子大学 現代文化学部英米文化学科助教授

金丸裕行 日本電信電話株式会社 広報部担当課長

★川辺信雄 早稲田大学 商学部教授

厚東偉介 早稲田大学 商学部教授

小林早苗 株式会社エル・ビー・エス 常務取締役

杉本なおみ フェリス女学院大学 文学部助教授

寺門正之 株式会社東急エージェンシー PR 部

原岡 薫 久留米大学 文学部助教授

二神典子 ロータリーの友事務所 編集部写真編集主任、愛知学院大学博士課程

八木 誠 広報コンサルタント

山本有恒 シチズン時計株式会社 広報室室長

★コーディネーター

2. 活動記録

- 第1回研究会 1997年6月27日
報告者： 早稲田大学商学部教授 太田正孝
タイトル：「トランスナショナル・マネジメントと異文化マネジメント」
- 第2回研究会 1997年8月29日
報告者： 東京純真女子大学現代文化学部英米文化学科助教授
馬越恵美子
タイトル：「クロスカルチャル・マネジメントについて」
- 第3回研究会 1997年9月26日
報告者： ロータリーの友事務所編集部写真編集主任、
愛知学院大学博士課程 二神典子
タイトル：「国際ロータリーの広報活動の課題」
- 第4回研究会 1997年10月31日
報告者： フェリス女学院大学文学部助教授 杉本なおみ
タイトル：「謝罪広告にみる日米比較」
- 第5回研究会 1997年12月23日
報告者： 江戸川大学社会科学部マスコミュニケーション学科教授
市川 昌
タイトル：「クロスカルチャル・コミュニケーションとしての日本賞
教育番組国際コンクール」
- 第6回研究会 1998年1月23日
報告者： 株式会社エル・ビー・エス常務取締役 小林早苗
タイトル：「体験的海外向け企業広報」
- 第7回研究会 1998年2月27日
報告者： 日経連社内報センター主幹 横館有恒
タイトル：「グローバル社内コミュニケーションの潮流」

II. 研究内容

1. 研究目的

1985年のプラザ合意による為替調整によって生じた急速の円高によって、日本企業の対外直接投資は急増した。その結果、日本企業のグローバルな活動は日常的なものとなり、その海外での影響力と存在感はきわめて大きいものとなった。

しかし一方で、海外におけるいろいろな事件や不祥事がマスコミなどで報道されている。具体的な例をみれば、アメリカの大和銀行、イギリスの住友商事の商品取引事件、そして三菱自動車製造のセクハラ事件、さらにはメキシコのティワナでの三洋電機の現地法人社長の誘拐事件などを思い出す。

これらの事件に対しては、意図的に日本企業の問題点として意図的に報道される場合も多い。しかし、日本企業も、これらの海外で生じた事件に対する対応にまずさがみられる。法律的な問題として処理できても、その問題についての企業内外への適切な情報の開示・提供に多くの問題が依然として残る場合が多い。

それは、日本国内においても企業の社内外への情報公開・提供つまりコミュニケーションは、いまだ十分確立されていない。ましてや、価値観や文化の異なる海外においては、その対応に戸惑っているのが現状ではないであろうか。

企業はグローバルな経営活動を統一的行うためには、本社の経営戦略や経営理念を現地企業で働く現地の人々に浸透させる必要があるが、一方ではそれぞれの国や地域の状況に応じて方法でそれをコミュニケーションさせる必要が生まれる。

この研究会では、「海外広報にみるクロスカルチャル・マネジメント」と題して文化の異なる国や地域における企業の広報の現状と問題点、今後のあり方を研究することを目的としている。

このために、具体的に研究するテーマは、以下のとおりである。

(1) 企業のグローバル組織と社内コミュニケーションのあり方。

(2) 各地域・国の文化と社内コミュニケーションのあり方。

社内コミュニケーションからみた対外広報のあり方。

2. 研究の進め方

従来クロスカルチャル・マネジメントと海外広報の問題の双方を結合した研究は存在しない。そのため、このような分野の研究にはどのようなものがあるのか、またそれらにどのように接近していくのかのを探ることが必要になる。

そのため、今年度は研究メンバーおよび外部から研究者を招いて研究会を開催することにした。研究会の内容は、（１）第１回および第２回の研究会で、研究メンバーの研究テーマに対する共通の理解と問題への取り組み方法を探るために、クロスカルチャル・マネジメントの理論的な研究をした。（２）次に、第３回、第４回、第５回にかけては、日米を中心に異文化に伴って生じる一般的な問題を考察した。（３）第六から第７回にかけては、具体的に、企業が異文化の中で海外広報を展開しているのか、実証的な研究をおこなった。

以下、各報告の概要についてまとめている。